



## 平成21年8月 マンスリー レポート

集計企業数 60社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	43,584,536 万円	100.0%	100.0%(100.4%)	41,355,906 万円	95.9%(96.1%)
食 料 品	36,004,493 万円	82.6%(81.7%)	100.3%(100.9%)	34,102,432 万円	96.5%(96.9%)
農 産	5,340,589 万円	12.3%(11.4%)	104.8%(101.6%)	5,058,375 万円	100.7%(97.6%)
水 産	3,579,120 万円	8.2%(8.5%)	99.2%(101.8%)	3,406,475 万円	95.5%(97.7%)
畜 産	3,855,051 万円	8.8%(8.9%)	97.0%(100.7%)	3,667,876 万円	93.0%(96.6%)
惣 菜	3,753,379 万円	8.6%(8.1%)	98.5%(100.7%)	3,557,075 万円	94.8%(96.2%)
日配食品	8,030,487 万円	18.4%(18.7%)	99.9%(100.2%)	7,576,643 万円	96.1%(96.2%)
加工食品	11,445,864 万円	26.3%(26.2%)	100.7%(100.9%)	10,835,988 万円	96.9%(97.1%)
生活関連	3,259,037 万円	7.5%(7.6%)	101.4%(99.5%)	3,129,718 万円	97.3%(95.5%)
衣 料 品	1,534,487 万円	3.5%(4.3%)	89.1%(90.7%)	1,494,277 万円	85.3%(86.9%)
そ の 他	2,786,519 万円	6.4%(6.4%)	101.5%(102.0%)	2,629,479 万円	94.1%(94.3%)

### ② 数 値

全店総売上高	43,584,536 万円	店 舗 数	3,815 店舗
総売場面積	6,741,228.2 m <sup>2</sup>	総従業員数	206,935 人

店舗平均月商	11,424.5 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,783 円(92.4%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.5 万円(6.2 万円)	平均店舗面積	1,767.0 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	21.4 万円(20.5 万円)	パート比率(前月)	76.5%(76.0%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 天候不順による来店客数の減少、低温や梅雨明け遅れによる夏物・季節商材の不振で、盛り上がり欠ける夏商戦であった
- ・ 買い上げ点数は上昇傾向にあるが、商品単価が落ちており売り上げは伸びない
- ・ 低温の影響で菓子の動向が良く、サンマ、菌茸類など秋型商材の展開が奏功した

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・ 天候不順で相場が不安定な野菜は、高騰したキュウリ、レタスを中心にサラダ商材が低調であったが、高単価により売り上げには貢献した
- ・ タマネギ、ジャガイモ、ニンジンなどの土物野菜や菌茸類が好調であった
- ・ 果物は、スイカ、メロン、モモが伸び悩み、ナシは好調であった

### ○ 水産

- ・ 干物を中心に塩干類の苦戦は続くが、鮮魚はサンマやマグロが好調で、売り上げ回復傾向にある
- ・ 新サンマは、豊漁でサイズも大きく安値安定し、好調な売れ行きであった
- ・ 刺身類は低価格化が進むものの、蒸しタコ、生イカ、マグロが好調で全般的に動きは良かった

### ○ 畜産

- ・ 焼き肉商材の動向が鈍い一方、うす切り肉や切り落とし肉が好調であった
- ・ 牛肉は、輸入牛がけん引役となったが、単価が低く売り上げ回復には及ばなかった
- ・ 豚肉、鶏肉ともに相場が安く、商品単価の下落が進み、販売点数は上がるものの、売り上げをカバーするまでには至らなかった
- ・ 加工肉においても、ハム、ウインナー・ソーセージ類の商品単価が下がり、今年の部門売り上げを下回る結果が増えた

## ○ 惣菜

- ・ 米飯は、夏休みランチ需要が重なり引き続き弁当が好調。特に低価格弁当がけん引
- ・ 天ぷら、コロッケ類の主力商品が冷夏の影響で低迷した
- ・ 8月前半の天候不順の影響で、冷やし麺類、サラダ類の商品が鈍く、寿司も依然として低迷している

## ○日配・加工食品

- ・ 日配食品は、アイスクリーム、豆腐、麺類が不調でパン、卵、チーズ、マーガリンなどは好調であった
- ・ 加工食品では、7月に引き続き、乾麺と麺つゆ、和風調味料など季節商材が不調
- ・ 飲料、ビールなどは冷夏の影響で不振、酒類ではノンアルコール・第3のビールが好調。菓子も好調であった

## ○ その他

### ～お盆商戦の販売動向～

- ・ 今年は高速道路ETC割引により、帰省需要を見込むが、お刺身、オードブル、寿司などの高額のお盆商材より常備商品の稼働がよく、ここでも低価格化がみられ、全体ではほぼ前年並みの売り上げであった
- ・ 地元商品や手作り感のある商品（おはぎ）などが好調であった

### ～新型インフルエンザの販売動向について～

- ・ マスク、ハンドソープ、アルコール消毒液などが高稼働。マスクは各社とも品薄で入荷待ち状態。備蓄商品（インスタントラーメン、レトルト、缶詰など）に関しては、5月程の動きはない
- ・ 関連商材も活発な動きを示し、コーナーやエンド展開で対応している
- ・ インフルエンザ対策についても、流行の拡大に備えて対応策を検討している

以上